

大雪対策

大雪災害が発生した場合には公助だけでは対応が困難なことから、**自助・共助での取り組みが非常に重要になります。**まずは、家庭内や地域で大雪時の対応について話し合い、あらかじめ大雪に備えましょう。

車で外出する場合の備え

運転中に吹雪や地吹雪等により視界が悪くなったり視界が真っ白になり何も見えない状況(ホワイトアウト)になった場合は、早めに停車帯やコンビニエンスストアなどへ移動しましょう。

雪道を運転する際には、スコップやバッテリーのブースターケーブル、スタック時のための牽引用ロープの他、事故などにより車に閉じ込められた場合に備え、防寒用にブランケットなども入れておくと安心です。車内で救助を待つときには、マフラー周辺に雪が積もったままエンジンをかけると、排気ガスが車の中に入り一酸化炭素中毒の危険性が生じるので原則エンジンを切りましょう。

路面凍結に注意

信号交差点

橋梁(橋げた)

信号交差点のある箇所では、車が発進や停止を繰り返すことによって、圧雪や凍結路面が摩擦熱で解けて、タイヤとの間に水滴ができるため、路面が非常に滑りやすくなることがあります。



トンネルなどの出入口

トンネルなどの出入口は日陰になることが多い、局的に路面が凍結している場合があります。周囲が雪景色の場合には、トンネルの中と外での明るさが極端に異なることで状況が見えにくくなることを踏まえ、トンネル出入口付近での突然の路面変化に備え、走行には注意しましょう。

冬道の歩き方

坂道や横断歩道、バスやタクシーの乗降場所は特に注意!!

重心をやや前に、なるべく両手をあげて体のバランスを安定させることで転倒を防ぐことができます。急に走ったり、歩く速度を変えるときは特に滑りやすくなるので気を付けましょう。

降り積もった雪よりも踏み固められて圧雪や氷となった道のほうが滑りやすくなっています。そのため、たくさんの人や車が通る場所は特に注意が必要です。スニーカーや革靴、ハイヒールは雪道で滑りやすいためとても危険です。雪道では、撥水性・防水性に優れており、底が軟らかいゴム製で深い溝がある滑りにくい靴を履くことが大切です。

大雪が降った場合

除雪作業の注意点

雪かきスコップなどの除雪用具を用意しましょう。また、作業中は転倒や屋根雪の落下に注意しましょう。県・町は、所管する幹線道路を中心に、除雪作業を行います。

町民の皆さん、**自助・共助の精神に基づき自宅付近の除雪を行なうなど通行の確保、孤立・閉じ込め状況の解消に協力してください。**ただし、個人敷地内も含め、除雪した雪は事故やケガの元になりますので道路に出さないでください。

備蓄をしましょう

積雪により外出できなくなる場合に備え、水(1人1日3リットルが目安)、食糧、灯油等の備蓄を確認しましょう。特別な非常食に限らず、普段から購入しているものを少し多く買い置きすることで十分です(最低3日分・推奨7日分)。



落雪に注意

屋根の雪が解けはじめ、**大きなかたまりになって落下する場合があり大変危険です。**可能な限り屋根の雪を下ろすか、下に物を置かないようしたり、通行者に注意を呼び掛ける表示をしましょう。



外出は控えましょう

積雪時には不要不急の外出は極力控えてください。

自動車等により雪が踏み固められると除雪が遅れ、交通障害の原因となります。



地域で助け合おう

近所に1人暮らしの高齢者や障がいのある方がいる場合は、地域で協力して助け合いましょう。

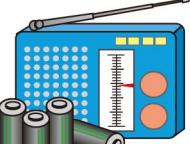


非常時持出品・備蓄品

非常時持出品(例)

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 感染症対策 | |
| <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> 手指の消毒液 |
| <input type="checkbox"/> 常備薬(持病の薬等) | <input type="checkbox"/> 体温計 |

非常食品



- 火を通さない食べられるもの
- 飲料水
 - 乾パン
 - 缶詰
 - アルファ米
 - 餅・チョコなど

ライト類



- LEDランタン
- 懐中電灯
- 電池(多めに用意)

その他

- | | | | |
|---|--------------------------|--|-----------------------------------|
| 現金(小銭多めに) | | 携帯電話の充電器 | |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 紙皿・紙コップ |
| <input type="checkbox"/> ホイッスル(助けを呼ぶため) | | <input type="checkbox"/> タオル | <input type="checkbox"/> 携帯トイレ |
| <input type="checkbox"/> 着替え | | <input type="checkbox"/> ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う) | <input type="checkbox"/> 新聞紙 |
| <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ | | <input type="checkbox"/> ポリ袋 | <input type="checkbox"/> ポリ袋 |
| <input type="checkbox"/> 歯ブラシ | | <input type="checkbox"/> 割りばし | <input type="checkbox"/> 耳栓・アイマスク |
- 各家庭で必要なもの
- 赤ちゃん用品(ミルク、離乳食、おむつ等)
 - 生理用品
 - コンタクトレンズ、めがね
 - 入れ歯や補聴器
 - リュックサック

非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

飲料水



- 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したタンクなど

非常食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフルーツ・飴・チョコ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他

- 生活用水(風呂などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具など
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- パケツ・各種アウトドア用品など
- 歯みがきセット・ひげそりなど

避難するときはこんな格好で

ヘルメット(防災ずきん)をかぶる



非常時持出品はリュックサックに入れて背負う

軍手や手袋をはめる



長そで・長ズボン着用 燃えにくい木綿製品が良い



靴は底の厚い、はき慣れたものをはく

帰宅困難に備えよう

昼間、大地震が発生した場合、交通機関の途絶によって自宅に戻れない「**帰宅困難者**」になる可能性があります。勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日ごろから準備をしておきましょう。

帰宅グッズを用意する

携帯ラジオ、ヘルメット(防災ずきん)、スニーカー、非常食品、懐中電灯、革手袋、地図、寒暖対策用品など。

家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親類とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のようないくつかの項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

災害時の安否確認の方法

家族の集合場所

徒歩帰宅する場合のルート

